

I K U S E I

わくせいの

2018 56



公益社団法人 競走馬育成協会

# CONTENTS

## ■巻頭言

「ウマはどう見えているか」

(JRA 馬事部生産育成対策室長 和田信也) ..... ①

## ■特 集

①平成 29 年度 育成技術講習会 講演録 ..... ③

演題：「米国流のブレーキング・初期育成法の特徴」～日本での応用を考える～

講師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏

②牧場就業者参入促進事業

「競走馬の牧場で働こうフェア BOKUJOB2018」 ..... ⑭

## ■行 事

①平成 29 年度 育成等に関する懇談会 ..... ⑰

②平成 30 年度 定時総会開催 ..... ⑱

## ■事 業

①育成技術講習会 ..... ⑲

②育成技術表彰事業 ..... ⑳

③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ..... ㉓

④競馬関連機材等有効活用事業 ..... ㉔

⑤軽種馬経営高度化指導研修（人材養成） ..... ㉖

## ■お知らせ

○賛助会員のご紹介 ..... ㉗

○愛馬の健康管理は 3 種類の予防接種から ..... ㉘

○地方競馬の馬主になりたい（NAR）告知 ..... ㉙

○あなたも装蹄師になりませんか？ ..... ㉙

○育成協会人事（職員異動） ..... ㉙



題字 元会長 小沢一郎  
表紙写真 内藤律子

## ウマはどう見えているか



JRA 馬事部生産育成対策室長  
和田 信也

JRA 生産育成対策室の和田です。美浦トレーニング・センターの競走馬診療所長から、3月に現職に就きました。これまで、栗東・美浦のトレセン、競走馬総合研究所、常磐支所、栃木支所、競馬学校などで勤務しましたが、競走馬の生産や育成に係る仕事の経験はありません。皆さまに教を請いながら相勤めますので、どうぞよろしくお願いたします。

本誌の巻頭言執筆依頼を受け、先輩諸兄の筆によるバックナンバーも拝見しましたが、こういった経歴から適当なネタが思い浮かびません。そこで、トレセン周辺の牧場に勤務する皆さんを対象にお話したもののうち、興味をもっていただいた、比較的受けたと思えたウマの視覚（＝ウマはどう見ているのか）について掻い摘んで記したいと思います。

動物は、視覚、聴覚、嗅覚、味覚および触覚のいわゆる「五感」を駆使して、生きるために必要な情報を得ています。視覚、即ち眼から入ってくる情報は、ヒトでは90%以上を占めるといわれますが、同じ陸上の哺乳動物であるウマが、視覚により多くの情報を得ていることは容易に想像できます。

視覚の成り立ちは、情報を収集する眼（テレビカメラ）、情報を映像にして映し出す脳（受像機）、および両者を接続する視神経（ケーブル）の関係に例えられます。すなわち眼は、脳がものを識別するために重要な明るさ、動き、形、色、遠近などの情報を、外界から光として収集するために外在化した感覚受容器であるといえます。

眼球は光を通過させる透光体（角膜、前眼房、硝子体）、光を集める屈折器（角膜、水晶体、硝子体）、光を感知する網膜と、これらの機能を調節する構造から成ります。成馬の眼球は深さ平均4.4、縦4.8、および横4.9mmであり、哺乳類ではキリンに次いで大きく、横長であることが特徴です。瞳孔（“ひとみ”）もヒトの6倍、イヌやネコの3～3.5倍の大きさであ

るため、多くの光を取り込むことができます。反対に、横長の瞳孔は円形のそれに比べて強い収縮が可能であり、大きな虹彩顆粒（瞳孔の背側にある球状の構造）の存在とともに光量の制限を容易にしています。さらに、眼底は光を反射する構造を持ち弱い光の感知に有用な背側と、光受容体の分布が少ない腹側に二分されています。

このような構造上の特徴から、ウマはヒトのような明所、あるいはネコをはじめとした暗所において特異的に優れた視覚を発揮する動物とは異なり、光の条件での偏りが少なく、あらゆる環境において良く見える眼をもつ、さらに視神経には動く物体の認識に関与する直径の太い軸索が多く、すぐれた動体視力をもつと考えられています。

ご存知の方も多いと思いますが、ウマは眼球が大きく横長であることに加え、頭の側面に位置することにより、水平視野が約350°に及ぶ、すなわち頭部を前に向けた状態で、額の直前と尾の直後を除く範囲を見渡すことができます。加えて垂直方向にも約180°で、草を喰みながら前方を見ることができます。一方、ものの識別（視力）と奥行き認識に関与する両眼視野は65～70°にとどまります。かつては、ウマのように視野の広い動物は立体視（奥行き認識）ができないと信じられていましたが、現在ではウマはネコやクジャクと同等の立体視力をもつことがわかっています。加えて、ウマは単眼でもある程度の奥行き認識が可能であるといわれています。

これらは、草食の被捕食動物であり、暗い地表の牧草を食みながら、明るい背景に潜む捕食動物に対して注意を払う必要に迫られるウマが、進化の過程で獲得した特性といえます。

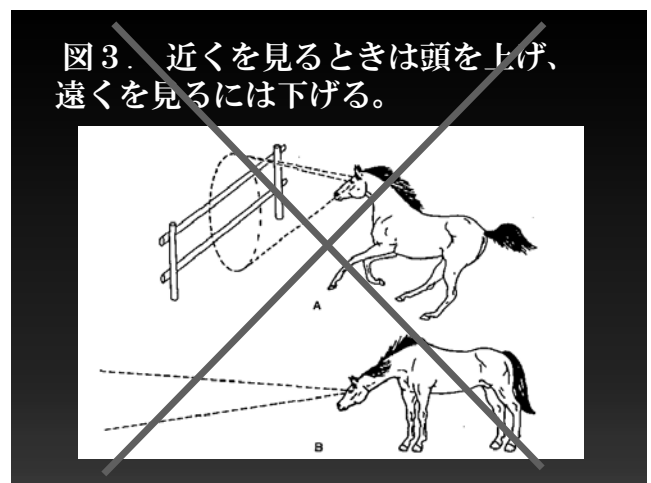
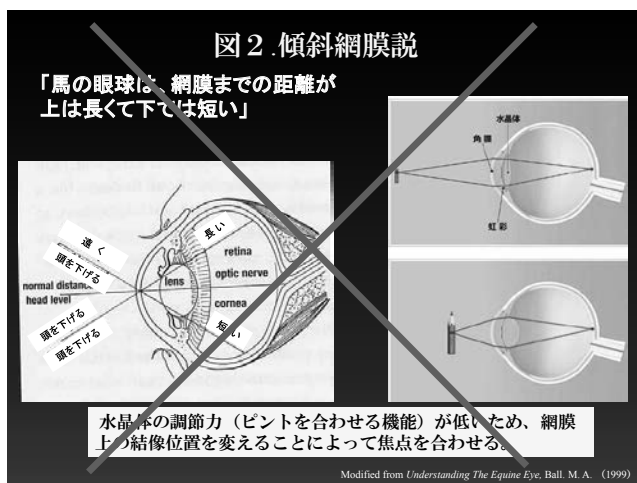
ウマが近視であるか遠視なのかについては古くから議論のあるところでしたが、近年では総じて正視であると考えられています。また、網膜における細

胞の分布密度の比較から、ウマの視力はヒトの約0.6倍で、イヌの1.5倍、ネコの3倍にあたとされています(図1)。かつては、ウマの眼は角膜中央から網膜までの距離が、背側で長くて腹側では短い、さらに水晶体の調節力が低いため、頭の上下によって結像部位を変えてピントを合わせるという“傾斜網膜説”が信じられてきました。しかし21世紀に入るころには、角膜-網膜間距離に部位による差はなく、神経細胞の分布が眼底の中央近くの一帯に集中している、すなわち視力を発揮するためには遠近に関わらずこの部位に結像する必要があることわかり、現在ではこの説は否定されています(図2、3)。

ウマの色覚については古くから、「色の識別ができず全てが灰色に見える」とか、「一部の色は見えるが他は白黒である」などのもっともらしい説が唱えられてきました。ちなみに20年ほど前に米国で出版されたウマ飼養者向けの教科書には、「黄色を一番、次いで緑と青をよく認識するが、赤は見分けられない」とする一方で、「黄色の横木障害の落下が一番多い」と、よくわからない記述があります。現在では、大まかにいうと「ウマは青と黄緑色の認識はヒトに近いが、緑や赤を見分けることはできない。また、ヒトほど色彩は鮮明でなく、いわゆるパステル調に見える」が広く支持されています。これは、色覚に関与する網膜の細胞がヒトでは青、緑、および赤

の波長に強く反応する3色型で100を超える中間色を識別するのに対し、ウマは2色型で中間色を認識しないこと、さらに細胞密度がヒトにくらべて低いことにより説明されます。

以上ウマの視覚について要約すると、1)ウマは視野が広く、2)明暗ともによく見え、3)視力は他の家畜に比べて高く、4)色の識別も可能で、5)動体視力も高い、ということになります。何かのお役に立てば幸いです。



## 平成29年度 育成技術講演会講演録 (北海道地区)

1. 演 題：米国流のブレーキング・初期育成法の特徴～日本での応用を考える～
2. 演 者：JRA 日高育成牧場 業務課 診療防疫係長 遠藤 祥郎 氏
3. 日時・場所：平成 29 年 10 月 18 日 (水)  
新ひだか町公民館・コミュニティセンター
4. 出席者：北海道地区 216 名

### 遠藤 祥郎 職員 プロフィール

昭和54年生まれ(39歳) 札幌市出身

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年 (H17) 帯広畜産大学(畜産学部獣医学科)卒業<br/>日本中央競馬会に入会<br/>美浦トレーニング・センター競走馬診療所勤務<br/>4年間競走馬臨床に従事</li> <li>・2009年 (H21) 日高育成牧場へ異動<br/>2年間育成を担当(自ら育成馬に騎乗)、エイシンオスマン号(NZT・GⅡ)、モンストール号(新潟2歳S・GⅢ)などが活躍<br/>2年間繁殖を担当、グランシェリー号(中京2歳S・オープン)などが活躍</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年 (H25) 宮崎育成牧場へ異動<br/>2年3ヶ月間育成を担当(自ら育成馬に騎乗)、坂路を使わない調教を経験</li> <li>・2015年 (H27) 海外生産育成調教実践研修で1年9ヶ月米国へ派遣<br/>ダービーダンファーム、ウインスターファーム、マーゴーフาร์ม、ステイヴ・アスムツセン厩舎でスタッフの一員として研修し、米国のサラブレッドが生まれてから出走するまで全てのステージを経験</li> <li>・2017年 (H29) 日高育成牧場へ異動<br/>再び繁殖を担当、山口大学より博士(獣医学)の学位を授与される、現在に至る</li> </ul> |
|---|---|

### 講演録

タイトルでお話させていただきます。よろしくお願  
いします。

育成協会講習会(2017/10/18)

### 米国流のブレーキング・初期育成法の特徴 ～日本での応用を考える～

JRA日高育成牧場  
業務課 診療防疫係長  
遠藤 祥郎



日高育成牧場の遠藤です。このたび、海外生産育成調教実践研修で米国に行かせていただきました。今回は帰朝報告として「米国流のブレーキング・初期育成法の特徴～日本での応用を考える～」という

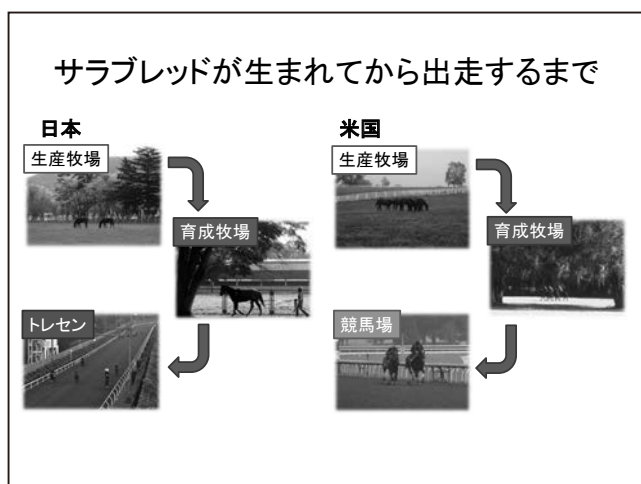
### 米国の競馬～King of Sports～



- 庶民のエンターテイメントの一つとして発達
- 観客がスタンドから全周見えるように小回り(1周約1,600m)
- 強い馬がいつも勝てるようにダートがメイン(芝よりも変動が少ない)
- ヒトの陸上選手と同じく左回り

本題に入る前に、まず米国の競馬について簡単にご説明します。ヨーロッパの競馬が王侯貴族のスポーツすなわちスポーツオブキングスとして発展してき

たのに対し、米国の競馬は庶民のエンターテインメントの一つとして発達してきました。観客がスタンドからレースの全周が見えるように、どの競馬場も1周約1600mの小回りになっています。また、強い馬がいつも実力どおりに勝てるように芝よりも馬場の変動が少ないダートがメイントラックとなっています。レースはヒトの陸上選手と同じく左回りで行われます。



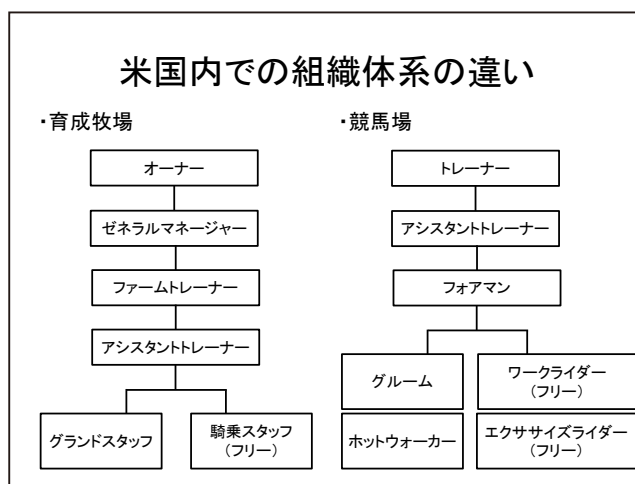
米国のサラブレッドが生まれてから出走するまでの流れですが、生産牧場で1歳の夏まで過ごし、ブレイキングが行われる1歳の秋から育成牧場に移って調教される点は日本と同じです。異なるのは、競走馬としてデビューした後、日本ではトレセンで調教されるのに対し、米国ではレースが開催される競馬場で調教が行われている点です。

### 育成調教全体の違い

日本	米国
■ 騎乗スタッフは従業員	■ 騎乗スタッフはフリー
■ 騎乗時間は30分から1時間	■ 騎乗時間は15分
■ 騎乗スタッフとグランドスタッフに分かれる	■ ワークライダーとエクササイズライダー、グルームとホットウォーカーに分かれる
■ 従業員のほとんどが日本人	■ 従業員のほとんどが中南米からの移民

育成調教全体の違いについて説明します。日本では騎乗スタッフは育成牧場・トレセンともに牧場や厩舎に所属する従業員ですが、米国では騎乗スタッフは基本的にフリーであり、騎乗料が1鞍ずつ歩合

制で支払われるシステムでした。また、日本では1鞍当たりの騎乗時間が30分から1時間程度ですが、米国では騎乗時間が短く1鞍15分程度でした。その代わり、ウォーミングアップやクーリングダウンにウォーキングマシンや引き運動が行われていました。日本では従業員が騎乗スタッフとグランドスタッフに大きく分けられていますが、米国では騎乗スタッフがさらにワークライダーとエクササイズライダー、グランドスタッフがグルームとホットウォーカーに細分化されていました。また、日本の従業員はほとんどが日本人ですが、米国ではヒスパニックと呼ばれる中南米からの移民がほとんどでした。そのため、調教師やアシスタントトレーナーは英語だけでなくスペイン語を話せる必要がありました。



米国の育成牧場と競馬場の組織体系の違いについて説明します。育成牧場では、オーナー、ゼネラルマネージャーの下に実際に調教を指示するファームトレーナーがおり、その下にアシスタントマネージャーがいる場合もありました。そして、スタッフは馬に乗らないグランドスタッフと騎乗スタッフに分かれていました。競馬場では、トレーナー、アシスタントトレーナーの下にフォアマンがいて、馬に乗らないスタッフは馬の手入れや馬装、馬房清掃をするグルームと、引き運動を担当するホットウォーカーに分かれていました。騎乗スタッフは追切に騎乗するワークライダーと、通常の調教を担当するエクササイズライダーに分かれていました。

## ブレーキングの違い

### 日本(日高)

- ▶ 北海道で生まれ、2歳の春までそのまま調教される
- ▶ 育成牧場に移動した時点で放牧が中止される
- ▶ ヨーロッパ式のドライビングを取り入れたブレーキングを行っている
- ▶ 平らな地面の上でしか調教していない

### 米国(KY)

- ▶ 1歳の秋にフロリダ州へ輸送され、2歳の春まで調教
- ▶ 昼夜放牧を継続したままブレーキングを行う
- ▶ ダブルレーンによるランジングおよびドライビングは行わない
- ▶ 放牧地など芝の上の不整地で騎乗する過程がある

日米のブレーキングの違いについてです。日本では育成牧場の多くが北海道にあるため、2歳の春までそのまま調教されるのに対し、米国では1歳の秋にケンタッキー州から育成の中心地であるフロリダ州へ輸送され、2歳の春まで調教が行われます。また、日本の育成牧場には放牧地がないため、育成牧場に移動した時点で放牧が中止されますが、米国では育成牧場に広い放牧地があり、昼夜放牧を継続したままブレーキングが行われます。日本ではJRAをはじめヨーロッパ式のドライビングを取り入れたブレーキングを行っていますが、米国ではダブルレーンによるランジングおよびドライビングは行われていませんでした。また、日本では平らにならされた馬場の上でしか調教していませんが、米国では放牧地など芝の上の不整地で騎乗する過程がありました。

## WinStar Farm

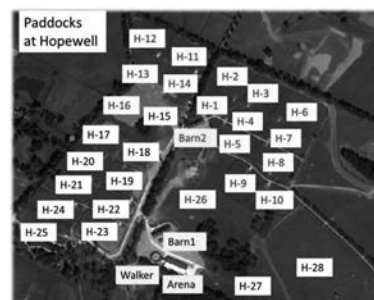


- ◆ 2000年創立
- ◆ Super SaverでKYダービー、DrosselmeyerでBCクラシック、Justifyで三冠に勝利
- ◆ 種牡馬事業が根幹
- ◆ サマーバードを繋養、クリエイターを所有
- ◆ 2,400 acres (972ha)
- ◆ 種牡馬22頭、受胎馬173頭、空胎馬59頭(2016年)

ブレーキングの研修をしたウインスターファームは2000年創立という新しい牧場ですが、今年ジャスティファイで三冠を勝つなど勢いのある牧場です。種牡馬事業に力を入れており、日本ではかつてサマーバードを繋養、クリエイターを所有していたことで

有名です。広大な敷地で種牡馬22頭を繋養し、年間約180頭生産しています。

## WinStar Farm Breaking Department



✓ パドックで朝夕飼付



✓ オリジナルのスイートフィードを1回2kg

- ✓ 牡は0.5~1haのパドックに2頭で放牧
- ✓ めすは8haの放牧地に8頭で放牧
- ✓ ほぼ24時間放牧(騎乗時のみ集牧)

ウインスターファームのブレーキング部門はかつてホープウェルファームという生産牧場だった土地を改修して作られました。2つの厩舎、ウォーキングマシン、角馬場のほか、パドックが25面、広い放牧地が3面あり、牡は0.5~1ヘクタールのパドックに2頭ずつ放牧され、めすは8ヘクタールの広い放牧地に8頭で放牧されていました。馬はほぼ24時間放牧され、騎乗時のみ集牧されていました。飼付けもパドックで行われ、朝夕牧場オリジナルのスイートフィードを2kg 給餌されていました。

## ブレーキング1週目

- ✓ 全て馬房内
- ✓ 馬房内回転
- ✓ ローラー
- ✓ 初日から跨る
- ✓ 鞍
- ✓ ハミ(頭絡)

ここからはウインスターファームでのブレーキングの手順について説明します。1週目は全て馬房内で行われていました。まずは引き馬で馬房内回転を教えて、それからローラーを装着し胸部の圧迫に慣れさせて、初日からまたがりませす。その後、鞍を載せ、最後にハミ付きの頭絡を装着していました。

## 2～4週目

- ✓ ラウンドペンおよび角馬場
- ✓ 無口の上からハミ付きの頭絡
- ✓ ネックストラップ
- ✓ 引き綱(リード)のままランジグ
- ✓ 輪乗りおよび8の字乗り
- ✓ 速歩および駈歩

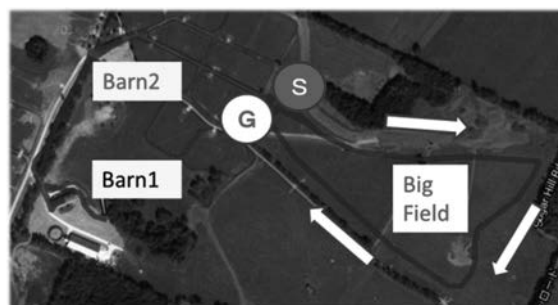
2～4週目はラウンドペン(円馬場)および角馬場で騎乗していました。馬装は無口頭絡の上からハミ付きの頭絡を装着し、落馬防止のためネックストラップを付けていました。まず引き綱(リード)のまま小さい円でランジグを行っており、この際馬場の壁は利用せず馬が内方を中心に自分でバランスを取って周回できることを意識していました。騎乗後は輪乗りおよび8の字乗りを繰り返し口向きを作っていました。速歩だけでなく駈歩も行っていました。

## 5～6週目

- ✓ 放牧地(パドック)
- ✓ 輪乗りおよび8の字乗り
- ✓ 速歩および駈歩
- ✓ 不整地をあえて走らせることで、馬が足下に注意するようになり、故障しにくい走行フォームを身に付けさせる
- ✓ 不整地でバランスを取りながら走れるだけの体幹の筋力を養成していく

5～6週目には普段放牧されている放牧地(パドック)で騎乗していました。輪乗りおよび8の字乗りを繰り返すこと、速歩および駈歩をすることは一緒です。この時期に不整地をあえて走らせることで、馬が足下に注意するようになり、故障しにくい走行フォームを身に付けさせるという考え方でした。この時期の1歳馬は人を乗せてバランスを取るだけで精一杯という感じですが、さらにバランスの取りにくい不整地を走らせることでより強い体幹の筋肉を養成していきます。

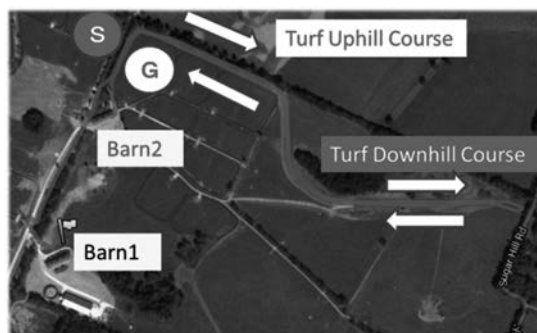
## 7～14週目



大放牧地コース(3.7km)

7～14週目には3つのコースで騎乗されていました。1つ目は大放牧地コースで広い放牧地を右回りで速歩および駈歩で周回します。全長3.7kmで、雨天時は芝が滑るので使われていませんでした。

## 7～14週目

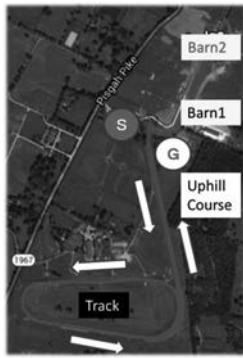


グラス坂路コース(2.9km、4～6%)

2つ目はグラス坂路コースです。これは放牧地と隣の牧場との間の勾配のある草地を利用して、まず上り、下り、上り、下りと交互になるように使っていました。全長は2.9kmで、坂路の傾斜は4～6%でした。このコースも雨の日は芝が滑るので使われていませんでした。



## 7～14週目



周回コース  
および  
坂路コース  
(5.1km、3%)

3つ目は周回コースおよび坂路コースです。ブレーキング部門の隣りにあるトレーニング部門まで下りて行き、1周1,400mのオールウェザーの周回コースを左回りで走った後、ファイバーサンドの坂路コースを上ります。全長5.1kmで坂路の傾斜は3%でした。雨が降っても馬場が悪化しないので使われていました。そして、12月もしくは1月にこのコースを難なくこなせるようになってから、ブレーキング部門を卒業しトレーニング部門に移動していました。

## Point①: 起きた走行フォームを作る

セルフキャリッジ(=バランスバック)した走行フォームを教える

### 【方法】

- ・芝の上などの不整地で調教する
- ・円柱形のランジング・ドライブ
- ・勾配のあるコースで調教する



米国の調教で感じたポイントの1つ目です。ブレーキング後、まずは起きた走行フォームを作ることが優先されていました。調教コースでの本格的な調教に入る前に、セルフキャリッジ(これはバランスバックとも呼ばれていますが同義です)した走行フォームを徹底的に教え込んでいました。方法として、米国では芝の上などの不整地で2ヶ月程度乗り込むことで馬が足下に注意するようになり、体幹の筋肉が鍛えられ、自然と起きた走行フォームを身に付けていきました。JRAでは(円錐形ではなく)しっかりトモを踏み込ませて円柱形のランジング・ドライブ

ングをするように心がけていますが、米国でも壁を利用せず短い引き綱(リード)のまま小さい円でランジングを行うことで馬が内方を中心に自分でバランスを取って周回できることを意識していました。また、米国に渡る前は米国の調教馬は坂路を使わずに調教されているものとばかり考えていましたが、育成牧場には坂路コースがあり、また勾配のある自然な草地をグラス坂路コースとして利用し、ブレーキング後の初期調教時の走行フォーム形成に応用していました。

## Point①: 起きた走行フォームを作る

若いうちが良い(子供の方が早く自転車の運転を覚えるように)

馬の口を5本目の肢(支点)にしない  
(セルフキャリッジさせる)  
(ハミを使うのは曲げる時の内方のみ)

物見をしないように工夫する  
(普段放牧されているパドックで乗るなど)



この走行フォームを作るのは若いうちが良いという考え方でした。ヒトも子供の頃の方が早く自転車や一輪車の運転を覚えるように、走路に出て時計をつめていく前に理想的な走行フォームを身に付けさせるのが時期的に適していると考えられていました。また、騎乗者は馬の口を5本目の肢(支点)にせず馬自身にバランスを取らせてセルフキャリッジさせること、ハミを使うのは曲げる時の内方のみという乗り方が徹底されていました。さらに芝の上の不整地で乗る際には物見をしないように工夫されていました。例えば普段放牧されていてすでに環境に慣れているパドックで騎乗する、またグラス坂路に行く時には誘導馬として経験豊富でおとなしいリードポニーと一緒にいくなど、若馬が物見をして集中力を欠くことがないように配慮されていました。

## 育成牧場での調教の違い

### 日本(日高)

- ▶ 北海道は雪が降るので、屋根付きのコースがある
- ▶ 放牧はしないorサンシャインパドック
- ▶ 入厩時期から逆算して時計を重視
- ▶ 即戦力が求められる(トレセン入厩後すぐに出走)

### 米国(KY)

- ▶ 屋根付きの調教コースはない
- ▶ 放牧を継続したまま調教を行う
- ▶ 走行フォームを重視(休養馬はフォームを矯正)
- ▶ 競馬場入厩後、6週間程度で出走

ステージが進んで、育成牧場での調教の違いです。北海道は雪が降るので、屋根付きの調教コースを備えている育成牧場が多いですが、米国では屋根付きの調教コースはありませんでした。日本の育成牧場には放牧地はないかもしくはあってもサンシャインパドックに1頭ずつ放牧されますが、米国では育成牧場に広い放牧地があり、放牧を継続したまま調教を行うのが一般的です。日本では(自戒を込めて)入厩時期から逆算して時計を重視した調教がなされていますが、米国の育成牧場では走行フォームが重視され、休養のため競馬場から帰厩した馬はフォームの矯正を重視していました。特にトレセンの外厩など日本ではトレセン入厩後すぐに出走できるように即戦力が求められますが、米国では競馬場へ入厩した後6週間程度で出走するぐらいの仕上がりが求められており、余裕が感じられました。

## Margaux Farm

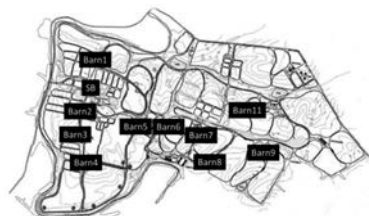


- ◆ ローイズインメイを生産
- ◆ 2012年にオーナーが変わり育成牧場となる
- ◆ 640 acres (259 ha)
- ◆ 220馬房
- ◆ 1周1,500mのAWの勾配付き周回コースで通常調教
- ◆ 全長1,700mのAWの直線坂路コースで追切(1.47%)
- ◆ 1周2,000mの芝コース

マーゴーフームはかつてローイズインメイなどを輩出した生産牧場でしたが、2012年に育成牧場になりました。管理しているのはほぼ預託馬で、1歳馬のブレーキングと休養馬のトレーニングを行っ

ています。1周1,500mのオールウェザー馬場の勾配付き周回コースで通常調教を行い、全長1,700mのオールウェザー馬場の直線坂路コースで追切を行っていました。また、1週2,000mの芝コースもありました。

## Margaux Farm Training Department



✓ 集牧して馬房で朝夕飼付

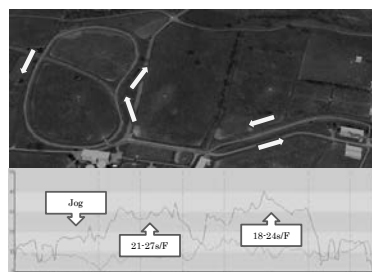


✓ オリジナルのスイートフィードを1回0.9-2.7kg

- ✓ 2歳新馬や休養馬のうち肢元に問題のない馬⇒昼夜放牧(17時間)
- ✓ 脚部不安があり運動量と採食量を制限したい馬⇒夜間放牧(12時間)
- ✓ リハビリ中の馬や競馬場への入厩が近い馬⇒昼間放牧(3時間)

マーゴーフーム・トレーニング部門では、放牧しながら調教が行われていました。馬の状況に応じて放牧時間が変更されていました。まず2歳の新馬や休養馬のうち肢元に問題のない馬は、放牧時間17時間の昼夜放牧が行われていました。脚部不安があり、運動量と採食量を制限したい馬は、放牧時間を12時間にした夜間放牧が行われていました。骨折の手術後などリハビリ中の馬や競馬場への入厩が近い馬は、放牧時間3時間の昼放牧がなされていました。いずれにせよ、集牧して馬房で個別に朝夕2回の飼い付けが行われ、牧場オリジナルのスイートフィードを1回0.9~2.7kg馬の状況に応じて与えていました。

## 勾配付き周回コースでの通常調教

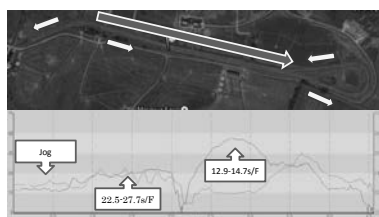


駈歩で2周(1周目ハロン21~27秒、2周目ハロン18~24秒)。4.3km

1周1,500mのオールウェザー馬場の勾配付き周回コースで通常調教を行っていました。このコースは

生産牧場を改修して育成牧場を造る際にあえて整地せず、勾配を残すことでこのコースを走っているだけで自然と前駆・後駆への負重を覚え、起きた（セルフキャリッジした）走行フォームを身に付けることができるという意図でアイルランド人のマネージャーが発案したものでした。形もきれいな楕円形ではなくハート形をしており、馬は駈歩での走行中に手前変換をしなくてはならず、そのことも馬の注意を乗り手に向けさせることに繋がり、新馬の走行フォーム形成のほか、走行フォームが崩れた休養馬立て直しにも一役買っていました。スライドはある馬の実際のメニューをGPS装置で記録したのですが、駈歩で2周し、1週目がハロン21~27秒、2週目がハロン18~24秒とゆっくりと走らせていました。たいていの馬は月曜日から金曜日にこのコースで通常調教を行い、土曜日に直線坂路コースで追切を行っていました。

### 直線坂路コースでの追切



駈歩で下る(ハロン22.5~27.7秒)、  
追切(ハロン12.9~14.7秒)。4.6km

追切は全長1,700mのオールウェザー馬場の直線坂路コースで行っていました。スライドはある馬の実際のメニューをGPS装置で記録したのですが、ハロン22.5~27.7秒のゆっくりした駈歩で下った後、ハロン12.9~14.7秒のタイムで追切を行っていました。この坂路コースは上がり切ったところが涙滴形（ティアドロップ形）をしており、追い切られた馬が坂路上で急にブレーキを掛けることなく1周ゆっくりと流せるようになっていました。

### Point②: 無酸素運動能を鍛える(追切)

乳酸値が上がる調教(=競馬での最後の直線で苦しい中頑張らせるイメージ)



#### 【方法】

・坂路での追切

・1ハロンの全力走行(米国のトレーニングセール)

・トレッドミル上での低酸素トレーニング?



米国の調教で感じたポイントの2つ目です。無酸素運動能を鍛える、いわゆる乳酸値が上がるような調教(追切)についての考え方ですが、私は競馬での最後の直線で苦しい中頑張らせるためのものとして捉えています。米国の中でもマーゴーフームのように新しい牧場の中には、日本の育成牧場と同じように直線坂路コースを使用して追切を行うところもあるということがわかりました。そもそも米国の伝統的な調教法としては、米国のトレーニングセールがそうであるように短い距離の全力疾走を行って馬を仕上げていくそうです。1ハロン全力疾走できるようになったら2ハロン行い、3ハロン全力疾走できるようになったら競馬場に入厩するというのが伝統的なやり方で、これはクォーターホース競走馬の調教法がサラブレッドの調教に応用されるようになったとのことでした。最後に、米国では意外にもトレッドミルを使った調教は普及していませんでした。現在、JRAではトレッドミルを使用した様々な実験を行っていますが、将来的には例えば低酸素トレーニングなどを利用して無酸素運動能を鍛える方法が開発されるかもしれません。

## 競走馬の調教の違い

### 日本(トレセン)

- レースも調教も左回りと右回り両方で行われる
- ウッドチップ、ポリトラックなど様々な素材の馬場
- 集団調教を行っている厩舎もある
- ラシックスは禁止薬物である
- スパイク鉄の使用は禁止されている

### 米国(競馬場)

- レースも調教も全て左回り
- ダート馬場で調教される(芝馬は追切のみ芝)
- 単走か2頭併せて調教される
- 出走時だけでなく追切時もラシックスが投与される
- スパイク鉄(Toe Grab)が使用されている

最後に、競走馬の調教（日本ではトレセン・米国では競馬場）の違いについて説明します。日本ではレースも調教も左回りと右回りの両方で行われているのに対し、米国ではレースも調教も全て左回りのみで行われています。日本のトレセンにはウッドチップ、ポリトラックなど様々な素材の馬場がありますが、米国では基本的にダート馬場で調教され、芝馬は追切のみ芝コースで調教されます。日本のトレセンではヨーロッパ式の集団調教を行っている厩舎もありますが、米国では単走もしくは2頭併せて調教されていました。日本では利尿剤であるラシックス（フロセミド）が禁止薬物となっていますが、米国ではEIPH（運動誘発性肺出血、鼻出血）の予防のために使用が認可されており、出走時だけでなく追切時もラシックスが投与されていました。日本ではスパイクが付いた蹄鉄の使用が禁止されていますが、米国ではダートを走る馬に Toe Grab と呼ばれるスパイク鉄が使用されていました。

## Steven Asmussen Racing Stable



- ◆ 父は調教師、母は牧場主、兄は騎手(キャッシュ・アスムッセン)
- ◆ 1986年開業
- ◆ カーリン、レイチェルアレクサンドラ、クリエイター、ガンランナーを管理
- ◆ 全米最多勝記録(2009年623勝)
- ◆ 2016年殿堂入り

競走馬の調教は、キーンランド競馬場開催時にステイヴン・アスムッセン厩舎で学びました。アス

ムッセン師は、父が調教師、母が牧場主という競馬一家に生まれ、兄のキャッシュ・アスムッセン氏は騎手として第1回ジャパンカップをメアジードーツで制しています。自信も騎手でしたが1986年に調教師として開業し、カーリン、レイチェルアレクサンドラ、クリエイター、ガンランナーなどの活躍馬を管理。2009年には年間623勝をあげ全米最多勝記録を更新し、2016年に名誉の殿堂入りを果たしました。

### 2015年北米リーディング

順位	調教師名	総賞金	出走回数	出走頭数	勝率	3着内率
1	Todd A. Pletcher	\$26,278,647	1,124	317	24%	53%
2	Chad C. Brown	\$20,256,459	768	242	26%	57%
3	Bob Baffert	\$16,221,741	388	132	21%	53%
4	Mark E. Casse	\$13,697,149	896	265	18%	49%
5	Jerry Hollendorfer	\$11,625,395	1,114	262	20%	51%
6	William I. Mott	\$11,435,065	720	213	18%	46%
7	Steven M. Asmussen	\$10,768,759	1,499	384	17%	48%
8	Kiaran P. McLaughlin	\$9,635,721	393	118	24%	50%
9	Christophe Clement	\$9,218,937	505	166	20%	50%
10	H. Graham Motion	\$7,751,107	700	231	14%	42%

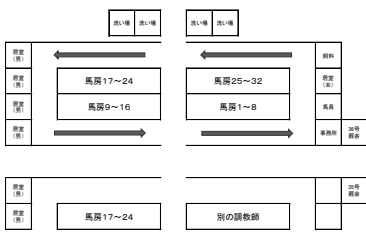
軽い調教(ただし、追切は強い)、放牧なし、濃厚飼料の多給(1日12kg以上)で精神的なストレスは掛けられている

一方で、運動量は少ないので肉体的なストレス(肢元に掛かる負担)は少なく、故障(運動器疾患)が少ない

そのため、競馬の出走回数を多くすることができ、賞金を稼ぐ可能性を増やすことができる

アスムッセン師は2015年の北米リーディングで7位でしたが、内容に注目してみると出走回数が非常に多く、勝率は低いもののたくさん出走することで賞金を稼ぐチャンスを増やすというスタイルの調教師であることがわかります。特徴として、軽い調教(ただし、追切は実戦並みに強いです)、放牧をしない、濃厚飼料の多給(1日に12kg以上)で馬は精神的なストレスが掛けられている一方で、運動量は少ないので肉体的なストレス、すなわち肢元にかかる負担)は少なく、故障(運動器疾患)が少ないということが言えます。そのため、競馬の出走回数を多くすることができ、賞金を稼ぐ可能性を増やすことができるというのが彼の厩舎の運営方針でした。

## 飼養管理



✓ 調教後は20分引き運動



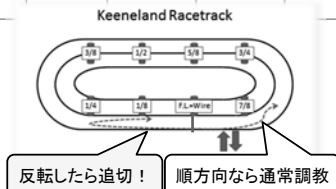
✓ 1日3回飼付(合計12kg以上！)

- ✓ 6:00~10:00調教(1鞍約20分)
- ✓ ホットウォーカーが引き運動
- ✓ 通常調教時と追切時は馬装が異なる(調教鞍⇒競走鞍、肢巻:エラストック⇒Equi Support)

競馬場での飼養管理ですが、まず調教は6:00~10:00に行われていました。1鞍の騎乗時間は約20分と短く、その代わりホットウォーカーが引き運動することでクーリングダウンしていました。引き運動によるクーリングダウンは、通常調教の後は20分、追切の後は40分、レースの後は60分、厩舎内のシェッドロと呼ばれる馬道にウッドチップを敷き、その上で行われていました。また、グルームが馬装するのですが、通常調教時は調教鞍にエラストック肢巻、追切時は競走鞍にエクイ・サポートと馬装を変えることで馬に「今日は通常調教の日」「今日は追切の日」だと認識させていました。濃厚飼料の量が非常に多く、3時に朝飼2kg、11時に昼飼2kg、16時30分夕飼8kg + サプリメントの1日3回飼い付けされていました。

## 2歳馬の例

9/26(月)	9/27(火)	9/28(水)	9/29(木)	9/30(金)	10/1(土)	10/2(日)
		入厩	5/8(1600m) 馬なり	5/8(1600m) 馬なり	Wire(2300m) 馬なり	1/4(2600m) 馬なり
10/3(月)	10/4(火)	10/5(水)	10/6(木)	10/7(金)	10/8(土)	10/9(日)
1/2(2300m) 追切 (50-51秒/4F)	Walker (引き運動) 20分	5/8(1600m) 馬なり	Gate(1500m) 馬なり	Gate(1500m) 馬なり	Grade1 (1700m 夕) 2着	Walker (引き運動) 20分
10/10(月)	10/11(火)	10/12(水)	10/13(木)	10/14(金)	10/15(土)	10/16(日)
Walker (引き運動) 20分	退厩					

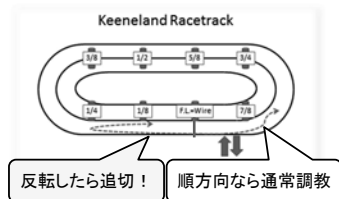


2歳馬の調教メニューの例です。追切は4ハロンを50~51秒と長めの距離を実戦並みのスピードで行われます。レース経験の浅い2歳馬の追切は2頭併せで行われていました。追切の翌日は引き運動のみでした。追切から中3~4日でレースに出走し、レ

スの日の朝および翌日から2~3日間は引き運動のみでした。また、馬場の使い方に特徴があり、馬場入場後順方向で直ちに駈歩し調教に入ったら通常調教、一旦常歩および速歩で外ラチ沿いを逆方向へ進み、内側へ反転してから駈歩発進したら追切と、調教をパターン化することで馬に「今日は通常調教の日」「今日は追切の日」だと認識させていました。

## 古馬の例

9/26(月)	9/27(火)	9/28(水)	9/29(木)	9/30(金)	10/1(土)	10/2(日)
				入厩	Wire(2300m) 馬なり	1/8(2400m) 馬なり
10/3(月)	10/4(火)	10/5(水)	10/6(木)	10/7(金)	10/8(土)	10/9(日)
1/2(2300m) 追切 (50-51秒/4F)	Walker (引き運動) 20分	5/8(1600m) 馬なり	Gate(1500m) 馬なり	Grade2 (1200m 夕) 7着	退厩	



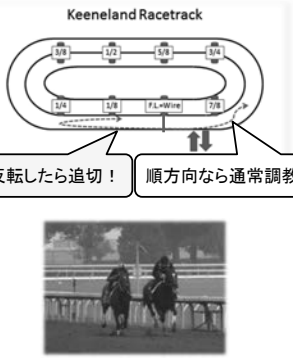
古馬の調教メニューの例です。追切は4ハロンを50~51秒と長めの距離を実戦並みのスピードで行われます。レースの経験が豊富な古馬の追切は単走で行われていました。追切の翌日は引き運動のみで、追切から中3~4日でレースに出走し、レースの日の朝および翌日から2~3日間は引き運動のみでした。また、アスムッセン師の調教で特徴的だったのは、追切以外の通常調教時のタイムがハロン20秒程度と極端に遅いことです。行きたがる馬にはDraw Reinと呼ばれる折り返し手綱を使用してまで必死に抑えて追切とのメリハリをつけていました。このことは結果として道中折り合いをつける練習になっていました。すなわち、アスムッセン師の調教では追切を単走で行うことで1頭で逃げても競馬ができ、通常調教を必死に抑えることで馬群の中でも折り合いをつけられる馬を作ることができるというものでした。

### Point③: 前進氣勢を出す

ゴールが決まっていると頑張っている

#### 【方法】

- ・調教のパターン化
- ・併せ馬
- ・馬装の変化  
(鞍や肢巻を変える)
- ・運動量を減らす
- ・直線コースを使う



ポイントの3つ目です。私も宮崎育成牧場での調教を経験して、周回コースでいかに前進氣勢を出すかということについて悩んでいたのですが、アスムッセン師の下で調教を学んで、色々とヒントをもらうことができました。まずはゴール板の位置を固定するという事です。そして調教をパターン化することで馬に「今日は通常調教の日」「今日は追切の日」と認識させることが重要だと思われました。また、まだレース経験の少ない2歳馬には併せ馬で調教することも有効であると思われました。さらに細かい部分でいえば鞍や肢巻を通常調教時と追切時で変えることで馬の気持ちに変化をつけられると感じました。逆説的な話になりますが、運動量を減らすことも速く走りたい気持ちを溜めるためには有効であると感じました。日高育成牧場のように直線坂路コースがあれば馬は「上り切ったらおしまい」と理解するので容易に前進氣勢が生まれますが、調教が競馬場の周回コースで行われている米国では様々な工夫がなされていました。

教わったのが、インディペンデントな馬を作ることです。これは、精神的に依存しない馬を作ることという意味です。そもそも放牧地で群れで過ごすのが自然な馬の姿ですが、調教師の仕事は1頭でも走れる競走馬を作ることだと教わりました。方法として、米国では当歳セリ、1歳セリ、そして2歳トレーニングセールとセリに出される機会が多く、セリをとおして子馬時代から1頭で引き馬されることに慣れさせていました。また、米国のトレーニングセールは単走で行われていますが、その準備として前の馬との距離を開けたシングルファイル（1列縦隊）での調教が行われていました。レースに慣れた古馬では単走での追切が行われていました。さらに、米国の競馬場ではリードポニーが使用されており、リードポニーがそばにいる時はOFFの状態、放れたらONの状態という刷り込みを行っていました。

### まとめ～米国の調教の特徴～

1. 走路で本格的な調教を始める前に、不整地や勾配のあるコースで騎乗し、セルフキャリッジした走行フォームを作る
2. 坂路もしくは1ハロン全力疾走で無酸素運動能力を鍛える
3. 調教のパターン化で前進氣勢を出す
4. 精神的に自立した“Independent”な馬を作る

米国の調教の特徴についてまとめます。1つ目として、走路で本格的な調教を始める前に、不整地や勾配のあるコースで騎乗し、セルフキャリッジした走行フォームが作られていました。2つ目として、坂路もしくは1ハロン全力疾走で追切が行われ、無酸素運動能力を鍛えていました。3つ目として、周回コースでの調教では、調教方法をパターン化することで前進氣勢を出していました。4つ目として、精神的に自立したインディペンデントな馬を作ること为目标に調教が行われていました。

### Point④: “Independent”な馬を作る

群れで過ごすのが自然な馬  
⇒1頭でも走れるのが競走馬

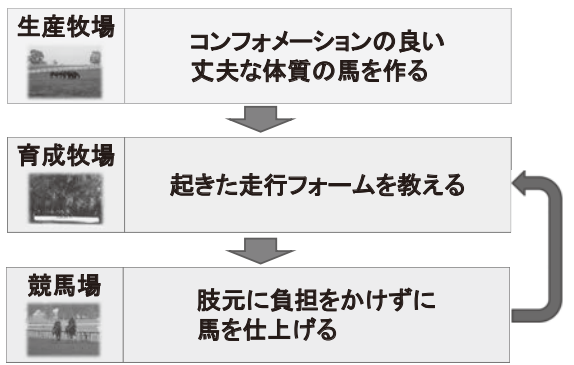
#### 【方法】

- ・子馬時代から1頭で引き馬(セリなど)
- ・前の馬との距離を開けたシングルファイルでの調教
- ・単走での追切
- ・リードポニーが傍にいる時はOFF、放れたらON



最後にポイントの4つ目としてアスムッセン師に

## 非常に合理的な米国での“役割分担”



研修では米国のサラブレッドが生まれてから出走するまでの一連の流れを、実際にスタッフの一員として経験することができました。そこで感じたのが、米国では各ステージでの役割分担がはっきりしており、非常に合理的な馬産が行われていたということです。生産牧場ではコンフォメーションの良い丈夫な体質の馬を作ること、育成牧場では起きた走行フォームを教えること、競馬場では肢元に負担をかけずに馬を仕上げて出走回数を多くして賞金を稼ぐことという明確な目的を設定して競馬産業が成り立っていました。

以上です。ありがとうございました。

### 育成技術講習会 in 北海道

## 米国流のブレイキング・初期育成法の特徴

～日本での応用を考える～

講師：JRA日高育成牧場 業務課 診療防疫係長  
遠藤 祥郎 氏

平成17年にJRA入会。美浦トレセンで競走馬の診療に従事した後、日高育成牧場、宮崎育成牧場での勤務を経て、海外生産育成調教実践研修のため、約2年間米国へ派遣。  
米国ではタービーダンファーム、ウインスターファーム、スティーヴ・アスムッセン厩舎などでスタッフの一員として研修し、サラブレッドが生まれてから出走するまでのすべてのステージを経験。

日時：10月18日（水）18:00～20:00

場所：新ひだか町公民館・コミュニティセンター  
（日高郡新ひだか町静内古川町1-1-2）

- 1 「不整地で走行フォームを作る」
- 2 「1ハロン全力疾走で無酸素運動」
- 3 「調教のパターン化で前進氣勢を出す」
- 4 「“Independent”な馬を作る」

お問い合わせ：  
公益社団法人競走馬育成協会 TEL 03-6809-1821

競走馬育成協会 北海道地域団体（支部）  
TEL 0146-42-2544

ホームページ <http://www.ttda.or.jp/>  
主催 公益社団法人競走馬育成協会  
共催 日本中央競馬会・公益社団法人競走馬育成調教センター



牧場就業者参入促進事業

「競走馬の牧場で働こうフェア BOKUJOB2018」

平成22年から「地方競馬全国協会からの補助金事業」として平成30年までの期間実施しております「牧場就業者参入促進事業」の中で、表題の「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB フェア2018」は、牧場版の合同企業説明会、および軽種馬産業を広く知っていただく機会として位置づけています。

このフェアを中心に3月には、関東・関西の育成牧場において「日帰り見学会」を、8月の夏休み期間中には、北海道において5泊6日の「夏休み牧場で働こう体験会」をそれぞれ開催してきました。

これは、牧場に就職をしようと考えている若者や保護者の方々に対して、実際に生産育成の現状を知っていただくことが狙いです。参加者が「牧場で働くことの楽しさ、達成感、また厳しさ」などを、メールやSNSなどを用いて、友達などに口コミで広げてもらおう効果も期待できます。

本年度は昨年に引き続き、6月の安田記念開催週にJRA 東京競馬場イーストホールにおいて「BOKUJOB2018メインフェア」を、また宝塚記念開催週にJRA 阪神競馬場において「BOKUJOB2018関西フェア」を開催いたしました。

なお、3月の「日帰り見学会」では、関東・関西の育成牧場の皆様に、また、8月の「夏休み牧場で働こう体験会」では北海道の牧場の皆様に、多大なるご協力をいただきました。本誌面を借りて御礼申し上げます。

「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB2018 メインフェア」

1. 概況

◎「BOKUJOB メインフェア（東京競馬場）」

- (1) 日時 6月2・3日(土・日) 10:00~15:00
- (2) 場所 東京競馬場 イーストホール他
- (3) 協力 競走馬のふるさと案内所・静内農業高校・日本軽種馬青年部 連絡協議会
- (4) 来場者 271名  
(社会人・大学生90名、高校生以下63名、保護者他118名)
- (5) 内容
  - ① 生産育成牧場との面談コーナー
  - ② JBBA・BTC・装蹄教育センター研修施設説明

コーナー

- ③ 静内農業高校による保護者等への進路相談・説明コーナー
- ④ 軽種馬青年部による相談・説明
- ⑤ 競走馬のふるさと案内所の紹介

メインフェア来場者の推移

	社会人 大学生	その他	高校生	保護者	合計	
2010年	450		150		600	
2011年	272		178		450	
2012年	210		199		409	
2013年	208		243		451	
2014年	169		106		275	パークウ インズ 7月開催
2015年	50	200	36	34	320	開催日 10月開催
2016年	73	73	50	58	254	開催日 6月開催
2017年	69	49	34	43	195	〃
2018年	90	119	37	25	271	〃

2. 広報

- (1) ポスター・チラシ送付 全国686箇所（ポスター1,058枚、チラシ31,580枚）  
農業高校、馬術部のある学校、動物系専門学校、競馬関連施設他多数
- (2) JRA ホームページ・競馬週刊誌 Gallop・馬レター
- (3) グリーンチャンネル・ITV・BS11における CM  
ビデオ放映
- (4) Facebook、Twitter による情報発信、各方面へのフォローの依頼

3. 事務局所感

一昨年開設した SNS を利用し、活発に若年層をターゲットにイベント告知を展開した。

また、グリーンチャンネル・競馬場内のターフビジョン・BSイレブンの競馬中継や雑誌広告等、従来型の告知も幅広く行い、対象となる参加者を少しでも多く集めるための施策を JRA 等関連機関と連携し実施した。



会場については、昨年と同様東京競馬場のスタンド1階イーストホールに会場を設営し、競馬場来場者にもイベントの開催をアピールした。

既卒者が増加し、昨年を上回る結果となったが、若年層人口が減少傾向にあり、有効求人倍率が上昇気味な昨今の日本において、どの業界も人員不足が深刻であるなか、あらゆる方策を講じて、より一層の参加者の獲得が必要である。

なお、開催時期や場所は参加者からも好評をえており、同一時期や場所で継続することにより、一層BOKUJOBの認知度向上を図ることとしたい。

なお、会場内においてふるさと案内所の機能を強化し、馬産地の情報発信やお子様向けのノベルティの配付を行ったことは、イベント全体に賑わいをもたらす結果となった。コンテンツについては、より一層牧場への就職に前向きな動機づけもたらしめようとするよう、関連する牧場や機関と連携し、効果的な内容となるよう工夫を施していきたい。

### 【出展牧場】

愛知ステーブル、イクタトレーニングファーム、宇治田原優駿ステーブル、栄進牧場& EISHIN STABLE、ST ウィンファーム、追分ファーム、岡田スタッドグループ、クラウン日高牧場&アローファーム&クラウン美浦牧場、グランデファーム、グリーンウッド・トレーニング、桑田牧場、下河辺牧場、社台コーポレーション、社台ファーム、白井牧場、ダーレー・ジャパン・ファーム、大山ヒルズ、千代田牧場、ノーザンファーム、ノースヒルズ、坂東牧場、ヒイラギステーブル、ビッグレッドファーム、フジワラファーム、松風馬事センター、山口ステーブル、吉澤ステーブル、吉澤ステーブル WEST 合計28牧場

### 「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB2018 関西フェア」

#### 1. 概況

◎「BOKUJOB 関西フェア（阪神競馬場）」

(1) 日時 6月23・24日（土・日） 10:00～15:00

(2) 場所 阪神競馬場 アメニティホール

(3) 協力 日本軽種馬青年部連絡協議会

(4) 来場者 257名

(社会人・大学生51名、高校生以下65名、保護者他141名)

(5) 内容

① 生産・育成牧場との面談コーナー

② JBBA・BTC 研修施設説明コーナー

③ 軽種馬青年部による相談・説明

### 関西フェア受付来場者の推移

	社会人 大学生	見学者	高校生	保護者	合計	ホール内 入場者
2012年	151 (含保護者)		28	←	179	1,486
2013年	28	16	20	23	87	282
2014年	104		10		114	382
2015年	37	118	32	45	232	1,019
2016年	40	57	29	48	174	
2017年	40	73	38	43	194	
2018年	51	153	32	21	257	

#### 2. 広報

- (1) ポスター・チラシ送付 全国686箇所（ポスター1,058枚、チラシ31,580枚）  
農業高校、馬術部のある学校、動物系専門学校、競馬関連施設他多数
- (2) JRA ホームページ・競馬週刊誌 Gallop・馬レター
- (3) グリーンチャンネル・ITVにおけるCMビデオ放映
- (4) Facebook、Twitterによる情報発信、各方面へのフォローの依頼

#### 3. 事務局所感

メインフェアに引き続き SNS や各種媒体を活用して、若年層をメインターゲットに積極的にイベント告知を展開する予定であったが、6月18日（月）に発生した大阪府北部を震源とする地震を考慮し、事前告知は簡潔な内容とした。

会場については、昨年同様阪神競馬場のアメニティホールに会場を設営し、競馬場来場者にもイベントの開催をアピールした。

対象参加者はメインフェアと同じく既卒者が増加し、メインターゲットである若年層（高校生・大学生・社会人）を中心に前年を上回る結果となった。

荒天となった6月23日（土）は苦戦を強いられたが、24日（日）に一気に盛返し、合計来場者数も過去最高となった。

昨年のイベントスペースに加えて、隣接する図書閲覧コーナーの使用が許可されたことにより、昨年よりも積極的に会場への誘引をイベントスタッフが言い、混乱なく各牧場からの説明がなされ、参加者の円滑な誘引と退出がなされた結果と言える。また、参加者からは「漠然とした気持ちで参加したが、牧場の方の説明を聞いているうちに、漠然とした気持ちが少しずつ整理されてきたように思う。インターシップも真剣に検討してみたい。」との声も聞くことができ中身の濃いイベントとなった。

今後とも、関西地区における主力イベントとして、この時期に固定して継続的な実施を考えていきたい。

### 【出展牧場】

イクタトレーニングファーム、宇治田原優駿ステーション、栄進牧場 & EISHIN STABLE、グリーンウッド・トレーニング、信楽牧場、大山ヒルズ、辰美牧場、ヒイラギステーブル、ノーザンファーム、吉澤ステーブル WEST 合計10牧場

最後にこの場をお借りしまして、出展協力いただきました牧場関係者の皆様、全国軽種馬青年部連絡協議会様、競走馬のふるさと案内所様、静内農業高等学校様、施設利用等に配慮いただきましたJRA 東京競馬場並びに阪神競馬場の皆様方に対し、御礼申し上げます。

メインフェア（東京競馬場・イーストホール）



～お知らせ～

競走馬生産・育成牧場応援サイト「BOKUJOB」に求人牧場の告知広告を掲載してみませんか。

まずは、Webサイト「BOKUJOB」を検索いただき、掲載されている内容をご覧ください。

求人牧場の紹介記事の掲載費用は無料ですので、ご希望の方はWebサイトから直接、若しくは、記入フォーマットを印刷しFAXにて協会までご連絡ください。

東京事務局 電話 03-6809-1821

FAX 03-6809-1822

# 平成 29 年度「育成等に関する懇談会」の開催

JRA との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。平成29年度の懇談会は9月29日午前10時 JRA 本部9階第3会議室において、JRA から木村一人馬事担当理事、山野辺啓馬事部長、上野儀治生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長をはじめ地域団体を代表する理事（欠席理事2名）ほか担当職員が出席して開催されました。

JRA からセリ市場の動向についての報告等がなされた後、当協会から「育成等を取り巻く状況について」を披露し、それらに対する JRA の見解等が示され、それぞれに意見交換がなされました。

## 「育成等を取り巻く状況について」

生産地周辺を中心とした育成牧場は、ブレーキングから競走馬になるための騎乗調教、初出走前のトレセン入厩までに必要な訓練を担当し、今やトレセンでは全く行われていない馴致分野を實踐して、新馬戦出走頭数の確保に寄与しています。

トレセン周辺を中心とした牧場は、トレセンが出走臨戦態勢の在厩を求めている現在、出走間の維持調整や後期育成の最終段階のトレセン入厩直前を担当して、入厩後短期間で出走できる状態を維持することを實踐しています。このことで本場開催の多くのレースがフルゲート近い出走頭数を確保できています。

育成牧場に求められる役割は高度で繊細になってきています。育成牧場が機能しなければ、競走馬のライフサイクルの1ステージが欠如することになり、現在のような中央競馬の安定は維持できなくなってしまうということも想像に難くありません。しかし、競走馬の他の分野に比べて、その評価が届きにくい環境になっているのではないのでしょうか。

競走そのものに直結する「育成」という業界を安定して成熟させることが、現在のような中央競馬を維持していくことにつながると考えられます。そのためにもこの育成業界への各方面からの十分な配慮がより一層必要になってまいります。出走馬の充実に貢献している成果と強い馬づくりに必要不可欠な役割を担っていることが評価され、育成という業界が安定的に活動できるよう JRA として前向きに取り組んでいただきたいと思います。

## 1. 育成技術表彰事業における褒賞金の水準維持について

育成技術表彰事業は、競走馬の育成技術の向上に努めた育成者に対して褒賞金をもって表彰するもので、新馬戦に向けた入厩前の若馬育成や次走に向けて臨戦態勢での維持調整といった昨今の育成牧場に求められる業務の証として、会員からも強い関心と意欲をもって注目されているものであります。当協会会員育成場の育成馬の表彰実績はたいへん高くなっています。このことは育成牧場を正規に経過することが新馬や重賞競走の勝利に結びつくことを表しており、本事業の果たしている役割は非常に大きいと考えられます。

一方、表彰に伴う褒賞の額の実績は、予算額を該当する勝ち馬頭数により除した金額まで単価を切り下げて交付していることから、平成28年度は59,100円となっており（平成27年度58,600円、平成26年度59,800円）、協会の育成技術表彰規程に定める「育成技術表彰として授与する額は、原則100,000円とする」とは大きく乖離してきています。

生産牧場は生産率の低さや資本回収までの期間の長さなどから、経営基盤に様々な対策がなされています。しかし、育成牧場は後発で役割が高まってきたことから、生産者賞のような制度はなく、ストレートに成果が反映されるのは「育成技術表彰制度」だけであります。

本事業の目的を果たし、還元と循環によって育成業界を安定して成熟させていくためにも、現状で唯一、育成牧場の成果へ評価を提供する制度である「育成技術表彰制度」の褒賞水準を高め、競馬サイクルの一翼を担う育成牧場の基盤整備に寄与することが望まれるのではないかと考えられます。そうした還元が就労環境を整え後継者の養成や育成技術者の確保などにつながると考えられますので、さらなる支援の増強をお願いします。

## 2. 育成技術者に関する表彰について

JRA のご協力により競馬場における2歳ステークス競走の表彰式での会員表彰が、現在重賞6競走で実現しており、会員の大きな励みとなっています。引き続き表彰機会の提供をお願いするとともに、対象競走の拡大についてもご配慮をお願いします。

## 3. 育成調教技術者の確保・養成について

育成調教に係る人材の確保・養成は競馬サークル全体の懸案事項となっています。これについては当協会を中心に JRA を含めた軽種馬関係5団体が連携し「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業

(BOKUJOB)」を実施しており、競馬場で実施するイベントをはじめ、広報 & 相談コーナーの拡大や体験会の実施など多彩に展開しているところです。

近年、「BOKUJOB」の知名度は少しずつ浸透しており、牧場における就労につながったという実例など、本事業は着実に成果をあげています。しかし最近では景気動向による他種業界の雇用環境の改善などの影響を受けて、軽種馬産業界は就労者の獲得に苦慮しています。

また育成牧場という性質上、騎乗技術者の養成は必要不可欠です。しかしながらなかなか有効な手立が見つからないのも事実です。生産育成の業界としても労働環境の改善等に取り組むことで、騎乗技術者の就労や養成につながるものと認識していますが、劇的な変革は困難な状況です。

今後とも就労者の獲得や騎乗技術者の養成に関連して、JRA の多方面からのご支援をお願いします。

#### 4. 育成牧場の基盤強化対策について

育成牧場には、人材確保、技術者養成、技術向上、設備投資、先行投資が必要であります。農業に分類される業種ではないため公的で有利な制度は少なく、その一方で設備投資などの規模は大きくなってしまっています。また人材確保の面からも経営基盤安定が不可欠になります。

近年、トレセンと育成牧場の連携が緊密になり、育成牧場にはよりレベルの高い技術が求められるようになってきています。これに伴い、育成牧場における施設・機材等の整備は経営上重要な課題となっています。協会ではそれらに対応する一助として関係団体のご支援の下、利子補給事業・リース事業・競馬関連機材等有効活用事業などを行っているところです。

特に「競馬関連機材等有効活用事業」については、JRA に様々なご協力をいただいております。この事業は牧場経営上の即効性があることから、会員の関

心と要望も強く抽選倍率も高くなっています。より多くの機材が育成牧場で有効に活用できますよう、関係団体を含め、特段のご配慮をお願いします。

#### JRA の見解と懇談内容

##### 1. 育成技術表彰事業における褒賞金の水準維持について

本事業は貴会の根幹事業の1つであり、本会としてもその重要性は十分に認識しています。褒賞金は直近7年間据え置かれてきたが、次年度については増額する方向で各所と調整中であります。(平成30年度は増額となりました。)

##### 2. 育成技術者に関する表彰について

さらなる対象競走の拡大については、JRA 全体としてメインレースの表彰式の速やかな進行に尽力しているところであり困難ですが、現状については引き続き実施したいと思っています。

##### 3. 育成調教技術者の確保・養成について

人材確保は競馬サークル全体の取り組むべき課題であると認識しています。BOKUJOB 等の活動は、育成協会が主体性をもって取り組むものと認識していますが、JRA としても今後とも協力・支援を続けていきたいと考えます。

##### 4. 育成牧場の基盤強化対策について

施設部門の担当者とも引き続き連携し、ご要望にお応えしていきたいと思っております。

この懇談会は比較的自由な意見交換ができることから、「育成調教技術者の確保・養成について」という話題に関連して、「外国人雇用の現状」や「技能実習制度の動向」等について多くの時間を費やし、様々な意見交換がなされました。

## 行事 2

# 定時総会開催

平成30年度定時総会は、平成30年3月9日に日本中央競馬会本部（六本木）9階第5会議室において開催されました。

栗田晴夫会長からの開会あいさつに続いて、農林水産省競馬監督課清水豪競馬監督官、日本中央競馬会木村一人馬事担当理事から来賓祝辞をいただきました。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議案の審議に入り、原案の内容にて承認されました。

第1号議案「平成29年度事業報告及び平成29年度財務諸表について」

第2号議案「平成30年度会費等の額及び徴収の方法について」

# 育成技術講習会

平成29年

育成技術講習会は、JRA、BTC、当協会の3団体共催として、以下のとおり開催いたしました（平成29年9月中旬から平成30年9月中旬実施分）。各講習会とも会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数の参加を得て、好評を博しました。

○東北地区

9月12日（火）  
13:30～15:00  
八戸家畜市場

演 題：「米国の生産・育成・セリの現状～日本との違いについて～」

講 師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏  
参加者数：39名 BTC 主催



講 師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏  
参加者数：216名 育成協会主催  
（詳細は3ページからの特集記事をご覧ください）

○関西地区

11月16日（木）13:00～14:00  
JRA 栗東トレーニングセンター 乗馬苑  
演 題：馬上で馬と良い関係を築こう  
講 師：JRA 馬事公苑 北原 広之 氏  
参加者数：150名 JRA 主催

○九州地区

9月26日（火）  
13:30～15:00  
（公社）日本軽種馬協会 九州種馬場

演 題：「米国の生産・育成・セリの現状～日本との違いについて～」  
講 師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏  
参加者数：29名 BTC 主催



○関東地区

11月30日（木）13:00～14:00  
JRA 美浦トレーニングセンター 乗馬苑  
演 題：馬上で馬と良い関係を築こう  
講 師：JRA 馬事公苑 北原 広之 氏  
参加者数：200名 JRA 主催  
※ 育成協会 HP において動画配信しております。



○北海道地区

10月18日（水）18:00～20:00  
新ひだか町公民館・コミュニティセンター  
演 題：「米国流のブレイキング・初期育成法の特色～日本での応用を考える～」

平成30年

平成30年9月末以降も引き続き3団体共催として、以下のとおり開催予定です。会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数のご参加をお待ちしております。

○東北地区

9月12日（水）13:30～15:00  
八戸家畜市場  
演 題：「馬と良好な関係の構築～馬のマインドに働きかける～」  
講 師：JRA 馬事公苑 工藤 将孝 氏  
参加者数：35名 BTC 主催  
【今後の予定】

○北海道地区

11月21日（水）18:00～20:00（予定）  
（公社）日本軽種馬協会 静内種馬場 覆馬場  
演 題：（実馬を使った講習会を予定）  
講 師：JRA 馬事公苑 職員（予定） 育成協会主催

この他、両トレセンの乗馬苑でも実馬を使った講習会が予定されています（JRA 主催）。

○九州地区

9月27日（木）13:30～15:00  
（公社）日本軽種馬協会 九州種馬場  
演 題：「馬と良好な関係の構築～馬事公苑で実施している引退競走馬のリトレーニング～」  
講 師：JRA 馬事公苑 宮田 健二 氏 BTC 主催

○関西地区 栗東トレセン

11月14日（水）13:00～14:00（予定）

○関東地区 美浦トレセン

12月12日（水）13:00～14:00（予定）

# 育成技術表彰事業

## 1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われてきました（表1）。

## 2. 平成29年度の表彰事業について

- (1) 平成29年度の表彰件数は、対象507競走のうち、284競走となった。2歳新馬競走が76.8%、2歳重賞競走では88.9%という高い該当率となり、全体でも56.0%という高い水準となった。こ

れは284勝という数字と共に、平成18年に現行の表彰対象競走となって以降、最高の該当競走数と該当率であった。

- (2) 平成29年度の表彰対象会員は、表3のとおりです。

## 3. 平成30年度の実施について

- (1) 表彰要件等については昨年から変更はありません（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象は、昨年度と同様、札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯及び京王杯の各2歳ステークスの6競走で行う予定です。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳(4歳)以上重賞 競走の3歳馬・ダート重賞交流競走 (3・4歳限定)	39件	平成21年度		225件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成22年度		230件
平成14年度		163件	平成23年度		229件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和 (育成期間5ヶ月以上)	125件	平成24年度		250件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成25年度		232件
平成17年度		185件	平成26年度		272件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成27年度		280件
平成19年度		213件	平成28年度		275件
平成20年度		218件	平成29年度		284件

※平成27年度の表彰件数は、JRA助成金確定後に修正申告のあった1件を含む。

表2. 平成30年度の実施について

種 目	表彰要件(注1、2)	賞 金	備 考
新馬競走	2歳新馬競走	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
	3歳新馬競走		
2歳重賞競走 (2歳重賞指定交流競走を含む。)	満1歳になる年度の9月1日~12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員		
障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入きゅう後42日(6週間)以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員		
3歳以上の重賞競走	トレセン等入きゅう直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入きゅう後30日以内に優勝した馬を育成した正会員	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
平地の3歳以上のオープン競走 (3歳限定競走を除く。)			

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

表3. 平成29年度 育成技術表彰対象会員一覧

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数												障害 重賞	3歳 以上 オープン	
			合計	新馬		2歳重賞			2歳交流重賞			3歳以上重賞					
				3歳	2歳	G I	G II	G III	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III			
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	101	10	80	1		6					2	1		1	
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	24	2	21			1									
(株)レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西	14									1	4	6		3	
(株)吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	13	5	7			1									
(有)ビッグレッドファーム	岡田美佐子	北海道	9	1	8												
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	9									2	1	5		1	
追分ファーム	吉田 晴哉	北海道	8	1	5	1			1								
(有)坂東牧場	坂東 正積	北海道	6	1	4						1						
(有)ファンタスタクラブ	古岡 宏仁	北海道	5	1	4												
(有)宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西	5		1							1				3	
(株)グリーンウッドパーク	永山 正喜	関西	5										2			3	
(株)マエコーインタプライズ大山ヒルズ	前田 幸治	関西	5		4		1										
(有)加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	4	2	2												
(有)ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	4		2	1		1									
(株)西山牧場	西山 茂行	北海道	4	1	3												
(有)ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	4		4												
社台ファーム山元トレーニングセンター	吉田 照哉	東北	4										2			2	
(株)愛知ステーブル	近藤 秀典	北海道	3		3												
(有)グランデファーム	衣斐 浩	北海道	3	1	2												
(有)ランド牧場	伊藤 佳幸	北海道	3	1	1					1							
(有)コスモビューファーム	岡田亜希子	北海道	3	1	2												
(有)下河辺牧場	下河辺俊行	北海道	3		3												
(株)森本ステーブル	森本 敏正	北海道	3		3												
(有)目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	3	2	1												
(株)MS遠野	長尾 研司	東北	3	1	2												
岩見ステーブル	岩見 輝成	北海道	2	1	1												
(株)セイクリットファーム	小林 克己	北海道	2		2												
(有)谷川牧場	谷川 貴英	北海道	2	1	1												
(有)千代田牧場	飯田 正剛	北海道	2	1	1												
二風谷軽種馬共同育成センター	稲原 稔久	北海道	2		2												
(有)三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	2		2												
(有)ビッグレッドファーム鉢田トレーニングセンター	岡田美佐子	関東	2										1			1	
(株)小松トレーニングセンター	山澤 貴子	関西	2													2	
(株)吉澤ステーブルWEST	吉澤 克己	関西	2											1		1	
(株)小国ステーブル	小国 和紀	北海道	1		1												
(有)キタジョファーム	北所 直人	北海道	1	1													
(有)様似木村牧場	木村 薫	北海道	1		1												
様似町軽種馬共同育成センター利用組合	辻 弘毅	北海道	1	1													
(株)エクワインレーシング	瀬瀬 賢	北海道	1		1												
(有)谷岡牧場	谷岡 康成	北海道	1		1												
(有)チェスナットファーム	広瀬 亨	北海道	1		1												
(株)ノースヒルズ	古谷 道昌	北海道	1	1													
(有)日高軽種馬共同育成公社	小竹 國昭	北海道	1		1												
(株)アクティファーム	加藤 祐嗣	北海道	1	1													
(有)オークリーフ	吉田 京子	関東	1											1			
(有)育成牧場ブルーステーブル	岩淵 哲雄	関東	1													1	
(有)坂本企画KSTトレーニングセンター	坂本 万夫	関東	1										1				
シンボリ牧場(有)	和田 孝弘	関東	1		1												
松風馬事センター	諸岡 慶	関東	1													1	
(株)リパティホースナビゲイト	佐久間拓士	関東	1													1	
(有)ジョイナスファーム	古谷 博	関東	1		1												
(有)三重ホーストレーニングセンター	伊藤 和夫	関西	1											1			
表彰件数 合計		52 会員	284 勝	37	179		13				3			32		0	20
対象競走 合計			507 競走	53	233		14				4			114		10	79
該当率			56.0%	69.8%	76.8%		92.9%				75.0%			28.1%		0.0%	25.3%
対象競走				3歳 新馬	2歳 新馬		2歳重賞				2歳交流重賞			3歳以上重賞		障害	オープン

# 平成 29 年度 2 歳重賞競走の施行競馬場における表彰

平成29年11月11日（土） 京都競馬場

第52回デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）

優勝馬 ジャンダルム（牡）

表彰会員名【4031】（株）マエコーエンタプライズ大山ヒルズ

プレゼンター：佐藤 光信 副会長理事

なお、京王杯2歳ステークス（GⅢ・11月4日・東京競馬場）  
は表彰該当牧場がありませんでした。



# 平成 30 年度 2 歳重賞競走の施行競馬場における表彰

平成30年7月22日（日） 函館競馬場

第50回函館2歳ステークス（GⅢ）

優勝馬 アスターペガサス（牡）

表彰会員名【4031】（株）マエコーエンタプライズ大山ヒルズ

プレゼンター：佐藤 光信 副会長理事



平成30年8月26日（日） 新潟競馬場

第38回新潟2歳ステークス（GⅢ）

優勝馬 ケイデンスコール（牡）

表彰会員名【1056】ノーザンファーム

プレゼンター：沖崎 誠一郎 理事

〔競走馬育成協会 関東地域団体（支部）長〕

平成30年9月1日（土） 札幌競馬場

第53回農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）

優勝馬 ニシノデイジー（牡）

表彰会員名【1053】（株）西山牧場

プレゼンター：飯田 正剛 副会長理事

〔競走馬育成協会 北海道地域団体（支部）長〕



平成30年9月2日（日） 小倉競馬場

第38回小倉2歳ステークス（GⅢ）

優勝馬 ファンタジスト（牡）

表彰会員名【1065】（有）坂東牧場

プレゼンター：柏木 務 理事

〔競走馬育成協会 九州地域団体（支部）長〕



# 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機会、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行う内容のものです。

貸付対象は大きく3種類に分けられます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵、その他協会が認める生産育成施設の改良、造成又は取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設、その他協会が認める生産育成用機械の改良、造成又は取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は平成5年から国の農業近代化資金の制度に準じて実施されており、平成22年までに9件の実績がありました。

近年、政府のマイナス金利施策により、融資機関が育成牧場事業主に対し低利による融資提供に動いており、平成29年は新たに6件（北海道2件、関東3件、関西1件）、平成30年も新規予定が1件（北海道）となっています（その他、平成22年からの継続が2件（関西2件））。

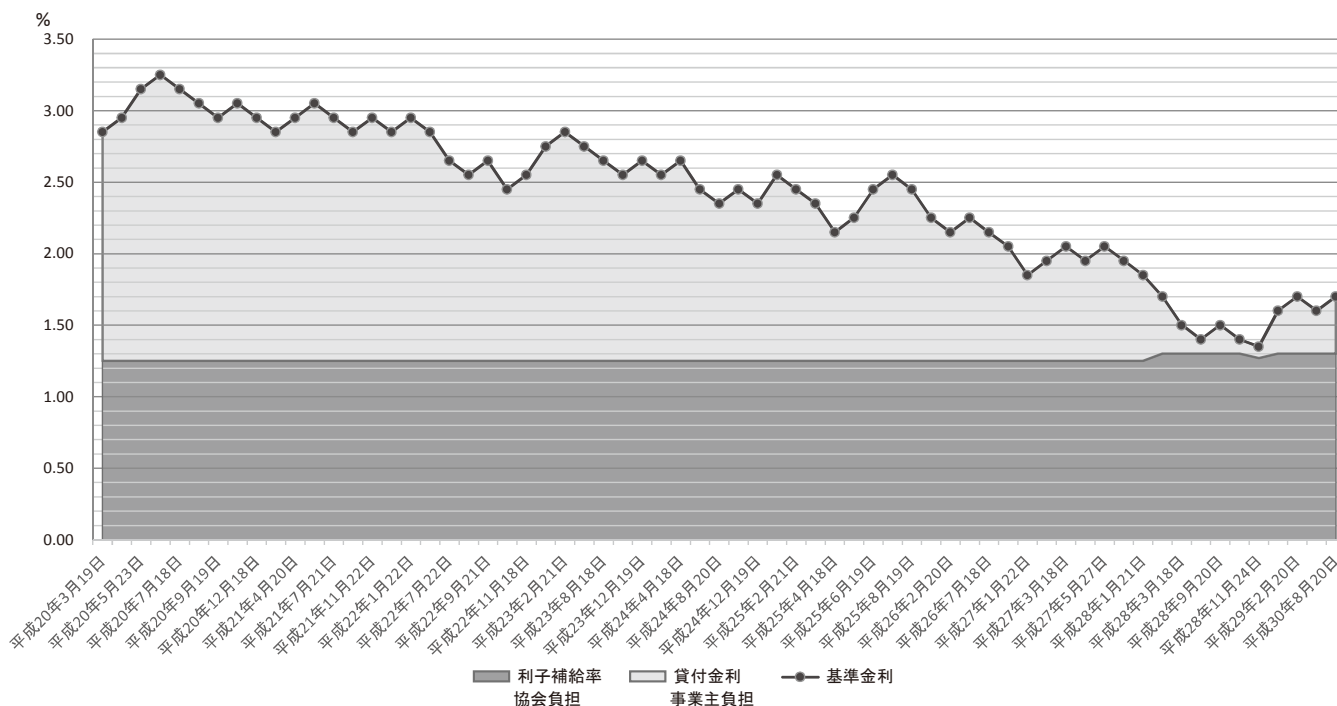
実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会等があります。

本事業についてご利用希望の会員の方は協会業務部までご連絡ください。

融資状況（平成30年9月現在）

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
H22	関西	110,000	2.50%	1.25%	1.25%
H22	関西	300,000	2.70%	1.25%	1.45%
H29	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
H29	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
H29	関東	40,000	1.40%	1.30%	0.10%
H29	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
H29	関西	3,500	1.60%	1.30%	0.30%
H29	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 H20~H30



## 競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減、経営の安定化を図る目的により、JRA 関連施設で使用を取りやめた競馬関連機材等について会員に再利用を斡旋する内容の事業であり、平成15年より実施されています。

平成29年度は計3回、平成30年度は第1回として7月に4機材が抽選の結果、会員に配布されています。応募が多く、希望者が重複する場合には、監事立会いのもと厳正なる抽選を実施し取得者を決定しています。結果等詳細は協会ホームページをご覧ください。

平成30年度は第2回目の機材情報提供を10月中に行うべく準備を進めていますので、各地域団体（支部）からのお知らせ、及び、適宜協会ホームページの確認をお願いいたします。

なお、応募される際の注意点等につきましては、協会ホームページ内の本事業実施要領及び事業実施のためのガイダンスと留意事項を事前に必ずご一読願います。無抽選の場合を除き、当該年度に一会員一機材の取得となりますことをご了承ください。前回、同種機材の抽選にもれた場合、一回に限り同種機材への優先倍率が適用されます。機材によっては、残存減価償却費分の有償物件であったり、要修理事物、特殊機械の種別により高額な輸送費負担が想定されることがありますので、抽選後のキャンセル等無きよう、事前に熟考していただいた上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA および JRAF 関係者のご協力を得ながら、情報収集に努めてまいります。

### 競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

#### ① 平成29年度・第2回〔11月15日（水）12件〕

No.	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	取得希望 会員数倍率	取得会員所属 支部
1号	FRP 製馬場柵 (中山)	2,250m 1台	JRA 中山競馬場	平成20年 (2008)	無償	5会員 うち優先2 7倍	関東
2号	FRP 製馬場柵 (阪神)	2,100m 1式	JRA 阪神競馬場	平成17年 (2005)	無償	5会員 うち優先3 8倍	関西
3号	FRP 製置柵 (阪神)	40基 120m	JRA 阪神競馬場	平成3年 (1991)	無償	3会員 うち優先2 5倍	関西
4号	FRP 製馬場柵 (札幌)	1,400m 1式	JRA 札幌競馬場	平成15年 (2003)	無償	3会員 うち優先2 5倍	北海道
5号	散水車	1台	JRA 日高育成牧場	平成7年 (1995)	無償	17会員 うち優先6 23倍	北海道
6号	4t ダンプトラック	1台	JRA 日高育成牧場	昭和62年 (1987)	無償	11会員 うち優先3 14倍	関東
7号	フォークリフト	1台	JRA 日高育成牧場	平成7年 (1995)	無償	12会員 うち優先2 14倍	北海道
8号	ウニモグ (ベンツ社製)	1台	JRA 競走馬 総合研究所	平成10年 (1998)	無償	3会員 うち優先0 3倍	北海道
9号	トラクター (マッセイファーガソン社製)	1台	JRA 競走馬 総合研究所	平成7年 (1995)	無償	12会員 うち優先3 15倍	北海道

No.	物 件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	取得希望 会員数倍率	取得会員所属 支部
10号	ホイールローダー (キャタピラー三菱社製)	1台	JRA 競走馬 総合研究所	平成元年 〔1989〕	無償	20会員 うち優先0 20倍	北海道
11号	フロントロータリーモア	1台	JRA 新潟競馬場	平成13年 〔2001〕	無償	5会員 うち優先4 9倍	北海道
12号	ハンマーナイフモアー	1台	JRA 宮崎育成牧場	平成6年 〔1994〕	無償	5会員 うち優先3 8倍	九州

② 平成 29 年度・第 3 回〔11 月 24 日 (金) 9 件〕

No.	物 件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	取得希望 会員数倍率	取得会員所属 支部
1号	モーターグレーダー	1台	JRAF (株) 美浦事業所	平成11年 〔1999〕	¥8,100,000	申込無し	無し
2号	モーターグレーダー	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成14年 〔2002〕	¥1,944,000	1会員 うち優先0 1倍	関東
3号	ウニモグ	1台	JRAF (株) 美浦事業所	平成16年 〔2004〕	¥108,000	4会員 うち優先1 5倍	北海道
4号	ウニモグ	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥140,400	2会員 うち優先1 3倍	北海道
5号	トラクター 120PS	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成16年 〔2004〕	¥270,000	12会員 うち優先7 19倍	九州
6号	トラクター 56PS	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成12年 〔2000〕	¥108,000	11会員 うち優先6 17倍	関西
7号	軽トラックダンプ	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成20年 〔2008〕	¥6,440	3会員 うち優先2 5倍	関西
8号	ミキシングハロー	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成18年 〔2006〕	¥54,000	2会員 うち優先0 2倍	北海道
9号	爪ハロー4列 6m	1台	JRAF(株) 栗東事業所	平成20年 〔2008〕	¥16,200	2会員 うち優先0 2倍	関西

③ 平成 30 年度・第 1 回〔7 月 19 日 (木) 4 件〕

No.	物 件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	取得希望 会員数倍率	取得会員所属 支部
1号	FRP 製馬場柵・〔函館〕	1,600m	JRA 函館競馬場	平成22年 〔2010〕	無償	10会員 うち優先3 13倍	北海道
2号	FRP 製馬場柵・〔中京〕	1,900m	JRA 中京競馬場	平成23年 〔2011〕	無償	2会員 うち優先0 2倍	関東
3号	軽トラックダンプ 21-1	1台	JRAF (株) 栗東事業所	平成21年 〔2009〕	¥320,000	4会員 うち優先2 6倍	関東
4号	軽トラックダンプ 19-2	1台	JRAF(株) 栗東事業所	平成19年 〔2007〕	¥230,000	3会員 うち優先2 5倍	関東

※優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた会員様については  
次回同種機材の取得を希望された場合に、抽選時1回に限り2個の玉を投入しています

## 軽種馬経営高度化指導研修（人材養成）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

### 1. 生産育成技術者海外派遣事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するものです。

昨年度は、（公財）軽種馬育成調教センター及び関西支部から推薦のあった同センター第34期卒業生5名を5月11日から8月7日までの約3ヶ月間、7月15日から8月16日の日程でフランスへ1名、11月5日から11月12日の日程でイギリス・アイルランドへ5名の研修生を派遣した。

本年度は、8月9日から11月2日の日程でアイルランドへ1名派遣しています。

また、11月には会員関係者を対象にした短期研修が予定されており、その他の研修についても随時受け付けを実施しております。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

### 2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者の内、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、（公社）日本軽種馬協会、（公財）軽種馬育成調教センター及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者を審査対象としている。

平成30年1月から3月に申請を受け、承認された件数は合計6件でした。

### 3. 生産育成牧場就業者参入

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

BOKUJOB メインフェアを中心に日帰り見学会や夏休みを利用した滞在型体験会などの開催、Webサイトによる生産育成調教場の周知、仕事内容等の情報発信などを主な活動としており、平成30年度の活動状況並びに予定は以下の通りです。

#### ◎「牧場で働こう見学会」

（関東地区）3月3日「ビッグレッドファーム銚田」、「KSトレーニングセンター」、「松風馬事センター」  
（関西地区）3月10日「グリーンウッドトレーニング」、「信楽牧場」、「ノーザンファームしがらき」

#### ◎「BOKUJOB 2018 メインフェア」

6月2・3日「JRA 東京競馬場」スタンド1階イーストホール

#### ◎「BOKUJOB 2018 関西フェア」

6月23・24日「JRA 阪神競馬場」アメニティホール1階

上記のようなイベントを継続的に実施することにより就活適齢期の対象者はもとより、それ以前の年齢層に対しても訴求効果が現れていると事務局では考えています。

#### ◎「夏休み牧場で働こう体験会」

7月29日～8月3日（5泊6日）

協力：「岡田牧場、杵臼牧場、グランド牧場、様似町軽種馬共同育成センター、谷口牧場、宮内牧場」

#### ◎「BOKUJOB 2018 広報&相談コーナー」

4月7日・8日「JRA 福島競馬場」  
7月14日・15日「JRA 中京競馬場」  
7月24日・25日「インターハイ馬術競技大会会場（御殿場市）」  
8月11日・12日「JRA 札幌競馬場」  
8月26日 「JRA 宮崎育成牧場」馬に親しむ日  
9月1日・2日「JRA 小倉競馬場」  
10月6日・7日「JRA 東京競馬場」

本年度は上記の場所でも広報&相談コーナーを設置し、牧場就業促進活動を展開しています。

#### ◎生産・育成牧場就職応援サイト「BOKUJOB.com」の運営

求人牧場掲載は無料ですので、会員の皆様のご利用をお待ちしております

## ◎ 「BOKUJOB ブログ」について

ブログに投稿していただける牧場を募集しています。「BOKUJOB」サイトの求人情報に拘らず、牧場の日々をご披露いただくなど、牧場就労に興味を持っていただけるように紹介しています。インターネットにて「BOKUJOB」、若しくは、「BOKUJOB ブログ」で検索していただくか、こちらのアドレスを入力ください「<http://blog.bokujob.com/>」。

## お知らせ

# 賛助会員のご紹介

平成30年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっておりました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション  
代表取締役 加藤英忠  
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177  
300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

株式会社 市原商店  
代表取締役 今泉治武  
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885  
520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

株式会社 三和メック  
代表取締役 天野公夫  
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413  
321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

株式会社 タイワ  
代表取締役 長谷川和宏  
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7002  
501-3822 岐阜県関市市平賀811

株式会社 テイクオー  
代表取締役 萩原早苗  
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2002  
272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12市川ガーデニア512

ベルテック 株式会社  
代表取締役 竹下與一  
Tel.06-6780-5270 Fax.06-6780-5280  
571-0046 大阪府門真市本町6-8

北海飼料販売 株式会社  
代表取締役 勢戸俊雄  
Tel.077-558-2468 Fax.077-558-2001  
520-3004 滋賀県栗東市上砥山906-1

株式会社 渡邊商店  
代表取締役 渡邊義之  
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715  
153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12



# 愛馬の健康管理は3種類の予防接種から

## 監視伝染病である馬インフルエンザ・日本脳炎・破傷風の 予防接種を実施しましょう!

### 3つの監視伝染病について

#### 馬インフルエンザ(届出伝染病)

馬インフルエンザは、ウイルス感染によって起こる急性の呼吸器感染症です。人のインフルエンザとは異なり、冬だけでなく一年を通じて流行するのが特徴です。著しく伝染力が強いいため、短期間に多数の馬が感染します。2016年から発売されている最新のワクチンには、海外で流行が確認されており、OIE(国際獣疫事務局)がワクチン株として推奨しているフロリダ亜系統クレード1のIbaraki/O7株およびクレード2のYokohama/10株が含まれています。

- 【症状】
- ・40℃前後の高熱
  - ・元気・食欲の低下
  - ・強い乾性の咳
  - ・水様性の鼻汁

#### 日本脳炎(法定伝染病)

日本脳炎ウイルスは、蚊(主として「コガタアカイエカ」)の媒介によって馬や人に脳炎を起こします。しかし、馬から人、人から馬に直接伝染することはありません。

- 【症状】
- ・40℃前後の高熱
  - ・頭部を下げ、日光を避けて壁などに寄りかかる沈うつ状態を示す(麻痺型)。
  - ・前掻きや旋回運動を繰り返し、時には狂騒状態を示す(興奮型)。
  - ・軽症例では、脳炎を伴わないこともある。

#### 破傷風(届出伝染病)

土壌中に生息している破傷風菌は、傷口から感染し、体内で増殖して毒素を産生します。この毒素が運動中枢神経を侵すことによって、特有の神経症状を示します。破傷風は人を始め多くの動物がかかる感染症ですが、特に馬は破傷風菌に対する感受性の高い動物として知られています。

- 【症状】
- ・全身の筋肉の硬直や痙攣
  - ・呼吸困難
  - ・全身の発汗
  - ・外的刺激への過剰反応

休養中あるいは育成中の  
競走馬や乗馬などにも  
予防接種を徹底しましょう!

### 予防接種について

軽種馬防疫協議会では、以下のとおり馬の予防接種要領を定めています。予防接種については、獣医師に相談してください。

#### ★馬の予防接種要領★

##### ●馬インフルエンザ

初回は使用説明書に基づいて2回接種(基礎免疫)し、以降半年に1回(春季・秋季)の補強接種を実施すること。  
※予防接種間隔が1年を越えた場合は、再度基礎免疫から実施すること。

##### ●日本脳炎

使用説明書に基づいて、その年の流行期前の5月～6月に2回接種すること。  
※5月～6月に接種が完了していない場合でも、必ず10月末までに接種すること。

##### ●破傷風

初回は使用説明書に基づいて2回接種(基礎免疫)し、翌年からは年に1回の補強接種を実施すること。  
※前年の接種歴がない場合は、再度基礎免疫から実施すること。

- 各主催者・団体等が更に詳細な要件を定める場合は、その指示に従うこと。
- 予防接種を実施した場合は、「馬の健康手帳」の「各種予防接種実施証明書欄」に、予防液のメーカー、製造番号、接種日、実施者等の必要事項を漏れなく記入すること。

集団で定期的な予防接種を  
心がけましょう!

### 馬の移動について

馬の移動に際しては、移動歴の記入および予防接種の証明を受けた「馬の健康手帳」を携行しましょう。



このリーフレットは軽種馬防疫協議会ホームページからダウンロードできます

[www.keibokyo.com](http://www.keibokyo.com)

軽種馬防疫協議会

東京都港区六本木6-11-1  
日本中央競馬会本部馬事部防疫課内

TEL : 03-5785-7517・7518  
FAX : 03-5785-7526

## ◆ 地方競馬の馬主になりたい

### 地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。  
地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。  
インターネット「地方競馬 馬主」で検索。

地方競馬 馬主

検索

または、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト

[http://www.keiba.go.jp/association/owner\\_faq.html](http://www.keiba.go.jp/association/owner_faq.html)でもご覧いただけます。

〔問合せ先〕 担当：地方競馬全国協会 審査部 登録課 電話 03-3583-2142 (平日 9時30分～17時30分)

## ◆ あなたも装蹄師になりませんか？

平成31年度の装蹄師認定講習会（1年間全寮制）の講習生を募集しています。

出願受付期間：平成30年11月19日（月）～12月14日（金）

試験日：平成31年1月15日（火）

受験資格：平成31年4月1日時点で満18歳以上の者

募集人員：若干名

試験会場：JRA 新橋分館（東京都港区新橋4-5-4）

詳細についてはお問い合わせください。

公益社団法人 日本装蹄協会 装蹄教育センター  
〒320-0851

栃木県宇都宮市鶴田町1829-2

TEL 028-648-0007 担当 山内

<http://sosakutei.jrao.ne.jp/>（ホームページ）

## ◆ 競走馬育成協会人事異動

【退任】

業務部長

遠藤 由佳

【就任】

業務部長

吉田 年伸

## ◆ ホームページのご案内

ホームページに毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。他、各種事業内容等掲載されていますのでご活用ください。



いくせい

2018 56号

発行日 平成30年9月30日

発行 公益社団法人 競走馬育成協会

〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4

日本中央競馬会新橋分館4階

TEL. 03(6809)1821

FAX. 03(6809)1822

E-mail: kgj00522@nifty.ne.jp

URL: <http://www.ttda.or.jp>

編集責任者 佐藤光信

制作・印刷 西谷印刷株式会社

